

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

1．収容定員を変更する組織の入学定員の設定の考え方及び定員を充足する見込み	2
学生確保の見通しの調査結果	6
中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向	7
同分野を有する競合校の状況	8
既設組織の定員充足の状況	10
2．学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	15
既設組織における取組	15
収容定員変更後の取組	16
3．収容定員を変更する組織で養成する人材の社会的要請や人材需要の動向	17

1. 収容定員を変更する組織の入学定員の設定の考え方及び定員を充足する見込み

経済産業省が平成 30 年に行った理工系人材需給状況に関する調査では、企業が必要とする人材及び学び直しのニーズとして、コンピュータ、通信・ネットワーク、人工知能、CG/画像処理、インタフェース系を学んだ人材や分野が挙げられている。最新の経済産業省の推計（「2040 年の就業構造推計（改訂版）の概要」）では、2040 年には、多くの産業において AI・ロボット等利活用人材が約 340 万人不足し、国全体でも職種や学歴による需給ミスマッチが深刻化する可能性が示されている。さらに、生成 AI・ロボット等の進展が加速する場合は、「AI・ロボット等利活用人材の需要がさらに増加する可能性がある」と分析されている。

また、本学も参画する「いわて DX 推進連携会議」が、令和 3 年に実施した岩手のデジタル化に関する調査では、回答した県内企業のうち約 65%がデジタル人材の不足を挙げている。

本学理工学部では、令和 7 年度に改組を行い 1 学科（理工学科）体制となり、情報系分野である改組前の知能・メディア情報コースは、知能情報コースとクリエイティブ情報コースとなった。改組により、専門分野を超えた幅広い学びに対応できるように 1 年次学生はクラスに所属し、分野横断的な学びを可能としており、知能情報コース及びクリエイティブ情報コースは情報系クラス所属となる。クラスでの 1 年間の学びの後、各コースへの配属は 2 年次に実施する。また、データサイエンス応用副プログラムが新設され、同プログラムに所属する学生も 2 年次に情報系の 2 コースである知能情報コース及びクリエイティブ情報コースへの配属も可能となっている。

こうした社会ニーズに応えられる人材育成を行い、より多くの高度情報専門人材を輩出するため、理工学部理工学科知能情報コースとクリエイティブ情報コースにおいて、令和 9 年度より入学定員を 10 名増員する。10 名増の内訳は、前期日程の定員を 3 名増員し 38 名、学校推薦型選抜の定員を 2 名増員し 10 名、総合型選抜 II に新たに女子枠 5 名を設置、である。

情報系コースにおいては、現在入学定員が 60 名であるところ、10 名の増員により 70 名となるため、増加率は 17%である。表 1 に、令和 2 年度から 8 年度までの情報系のコースである知能・メディア情報コース（令和 2～6 年度）および情報系クラス（知能情報コース、クリエイティブ情報コース）（令和 7～8 年度）における志願倍率および入学定員充足率を示す。令和 7 年度に理工学部は改組され、情報系の 2 コースの前身である知能・メディア情報コースの入試実績についても表中に含まれている。まず前期日程に関して、平均志願倍率は 2.1 倍、平均入学定員充足率は 117%となっている。このことから、前期日程における入学定員を 3 名増員し 38 名とした場合でも、十分入学者を確保できる。次に、学校推薦型選抜に関して、平均志願倍率は、4.0 倍、平均入学定員充足率は 106%となっていることから、学校推薦型選抜の入学定員を 2 名増員し 10 名とした場合でも、十分入学者を確保できる。また、総合型選

抜 II に関しては、クリエイティブ情報コースとして令和 7 年度に初めて選抜を実施した。広報活動の開始時期と出願時期が近接してしまったため、令和 7 年度の志願倍率は 1.0 倍、令和 8 年度の志願倍率も 1.0 倍であったが、入学定員充足率は共に 100% となった。総合型選抜 II では女子枠 5 名を設置するが、過去 5 年間における情報系コースの女性志願者数は平均 30 名程度であり、また令和 5 年に実施した本学に進学実績のある近隣の高校生約 2300 名に対する令和 7 年度改組後の志望コースに係る調査結果においても、情報系のコースに対し約 200 名が第一志望(女子約 17%)となっており、実績及び調査結果からも女子枠 5 名の入学定員に関しても充足できる見込みである。加えて、高校訪問や出前講義、探究活動の支援などにより広報活動を強化し、より一層多くの志願者及び入学者を確保する。最後に、情報系コースの入試区分の合計に示すように、令和 2 年度から 8 年度の平均志願倍率は、3.4 倍、平均定員充足率は、113% となっている。入学定員に対する入学者数は、令和 2 年度から令和 8 年度の間で、4 名から 12 名超過しており、入学定員を 10 名増員（合計 70 名）した後も、入学定員を十分充足できる見込みである。

理工学部知能情報コース及びクリエイティブ情報コースの前身組織である改組前の知能・メディア情報コースおよび改組後の情報系クラスの平均志願倍率は、3.4 倍である。また令和 5 年に本学に進学実績のある近隣の高校生約 2300 名に対して改組後の志望コースを調査した結果では、両コースに対し約 200 名が第一志望(募集人員の 3.35 倍、女子約 17%)と回答しており、このことから女子枠 5 名を含む学部 10 名増員後の入学定員も十分確保可能である。

表 1：知能・メディア情報コース（令和 2～6 年度）および情報系クラス（知能情報コース、クリエイティブ情報コース）（令和 7 年度）における志願倍率および入学定員充足率（入試年度）

		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
前期日程	入学定員(人)	35	35	35	35	35	35	35
	志願者数(人)	58	65	85	57	64	50	132
	志願倍率(倍)	1.7	1.9	2.4	1.6	1.8	1.4	3.8
	受験者数(人)	58	64	85	55	63	47	126
	合格者数(人)	39	38	41	42	51	45	35
	辞退者数(人)	1	0	0	0	2	1	0
	入学者数(人)	38	38	41	42	49	44	35
	入学定員充足率(%)	109	109	117	120	140	126	100

		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
後期 日程	入学定員(人)	12	12	12	12	12	12	12
	志願者数(人)	73	70	87	47	71	72	96
	志願倍率(倍)	6.1	5.8	7.3	3.9	5.9	6	8
	受験者数(人)	25	25	36	12	26	25	48
	合格者数(人)	17	16	13	10	13	13	12
	辞退者数(人)	2	1	2	3	5	0	1
	入学者数(人)	15	15	11	7	8	13	11
	入学定員充足率(%)	125	125	92	58	67	108	92
学校 推薦 型 選 抜	入学定員(人)	8	8	8	8	8	8	8
	志願者数(人)	32	37	32	27	31	36	27
	志願倍率(倍)	4.0	4.6	4.0	3.4	3.9	4.5	3.4
	受験者数(人)	32	37	32	27	31	36	27
	合格者数(人)	9	8	9	8	9	8	8
	辞退者数(人)	0	0	0	0	0	0	0
	入学者数(人)	9	8	9	8	9	8	8
	入学定員充足率(%)	113	100	113	100	113	100	100
総 合 型 選 抜 I	入学定員(人)	－	－	－	－	－		
	志願者数(人)	5	3	7	6	1		
	志願倍率(倍)	－	－	－	－	－		
	受験者数(人)	5	3	7	6	1		
	合格者数(人)	2	2	2	2	1		
	辞退者数(人)	0	0	0	0	0		
	入学者数(人)	2	2	2	2	1		
	入学定員充足率(%)	－	－	－	－	－		
総 合 型 選 抜 II	入学定員(人)	－	－	－	－	－	5	5
	志願者数(人)	1	1	0	0	0	5	5
	志願倍率(倍)	－	－	－	－	－	1.0	1.0
	受験者数(人)	1	1	0	0	0	5	5
	合格者数(人)	0	0	0	0	0	5	5
	辞退者数(人)	0	0	0	0	0	0	0
	入学者数(人)	0	0	0	0	0	5	5
	入学定員充足率(%)	－	－	－	－	－	100	100

		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
私 費 外 国 人 選 抜	入学定員(人)	若干 名	若干 名	若干 名	若干 名	若干 名	若干 名	若干 名	
	志願者数(人)	16	13	10	13	6	11	11	
	志願倍率(倍)	－	－	－	－	－	－	－	
	受験者数 (人)	14	7	7	13	6	9	11	
	合格者数 (人)	0	1	1	1	0	0	0	
	辞退者数 (人)	0	1	1	1	0	0	0	
	入学者数(人)	0	0	0	0	0	0	0	
	入学定員充足率(%)	－	－	－	－	－	－	－	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	平均
合 計	入学定員(人)	55	55	55	55	55	60	60	
	志願者数(人)	185	189	221	150	173	174	271	
	志願倍率(倍)	3.4	3.4	4.0	2.7	3.1	2.9	4.5	3.4
	受験者数 (人)	135	137	167	113	126	122	217	
	合格者数 (人)	67	65	66	63	74	71	60	
	辞退者数 (人)	3	2	3	4	7	1	1	
	入学者数(人)	64	63	63	59	67	70	59	
	女子数 (内数)	8	13	8	9	6	9	11	
	女子比率 (%)	12.5	20.6	12.7	15.3	9.0	12.9	18.6	
	入学定員充足率(%)	116	115	115	107	122	117	98	113

① 学生確保の見通しの調査結果

経済産業省が平成 30 年に行った理工系人材需給状況に関する調査では、企業が必要とする人材及び学び直しのニーズ（情報系）として、コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア、プログラム系）、通信・ネットワーク、セキュリティ系、データベース・検索系、CG/画像処理などの高性能計算系、Web コンピューティングやインタフェース等を学んだ人材や分野が挙げられている。これらの分野では、将来技術者が不足すると予想されている分野であり、専門性を持った人材育成が急務である。最新の経済産業省の推計（「2040 年の就業構造推計（改訂版）の概要」）では、2040 年には、多くの産業において AI・ロボット等利活用人材が約 340 万人不足し、国全体でも職種や学歴による需給ミスマッチが深刻化する可能性が示されている。さらに、生成 AI・ロボット等の進展が加速する場合は、「AI・ロボット等利活用人材の需要がさらに増加する可能性がある」と分析されている。

また、本学も参画する「いわて DX 推進連携会議」が令和 3 年に実施した岩手のデジタル化に関する調査では、回答した県内企業のうち約 30%の企業がデジタル人材の採用・育成に取り組んでおり、約 65%がデジタル人材の不足を挙げている。また、県内の建設業、製造業の DX 推進レベルは、全国平均よりも低い数値となっている。帝国データバンクの調査でも、全国及び岩手県のいずれにおいても、DX に取り組む上での課題として、回答企業のうち 5 割弱の企業が対応できる人材不足を挙げている。産業界や多くの企業が、DX や ICT 利活用等に取り組むための情報系人手不足を課題としていることから、地域社会や我が国全体において、社会における情報系人材のニーズが存在すると言える。

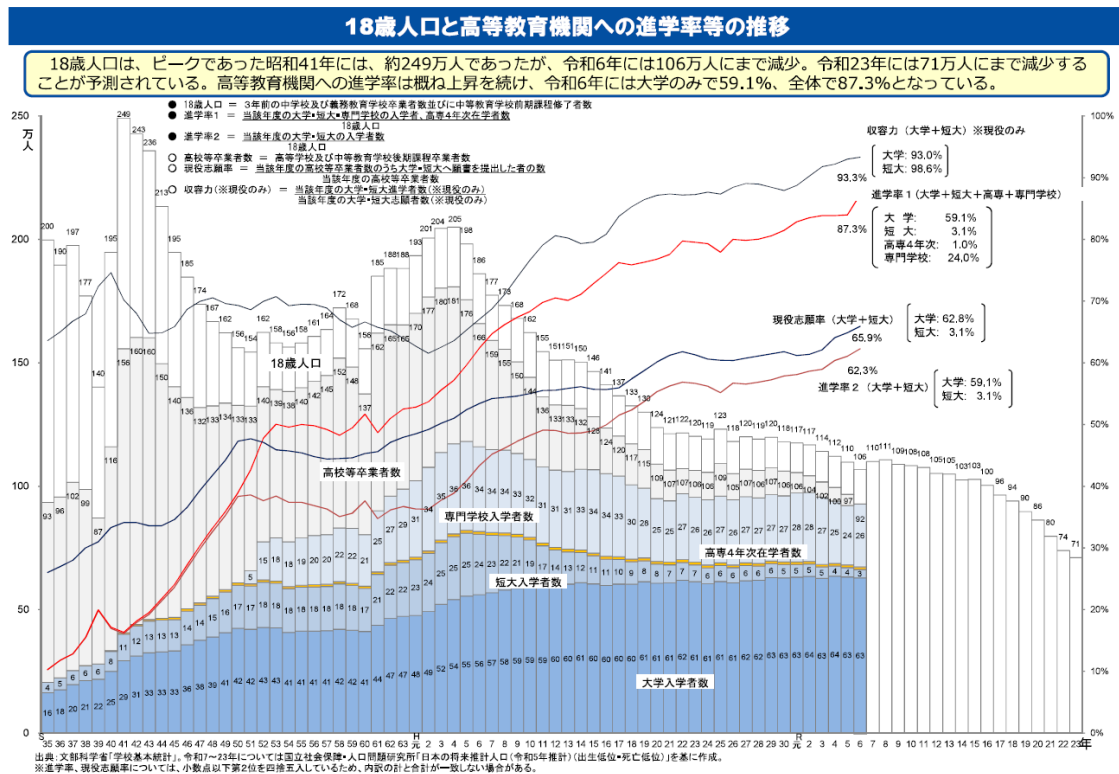
知能情報コースおよびクリエイティブ情報コースの前身となる知能・メディア情報コースには、両コース合わせて、令和 2 年度から令和 7 年度まで、平均約 277 社の企業が求人票を送ってきている。例えば、令和 6 年度には、274 社が求人票を送っており、そのうち約 40 社が来訪し、採用活動を行っている。それら求人票を送ってきた企業のうち推薦枠を設定する企業は約 200 社であり、この推薦枠を定める企業のほぼ全てで推薦枠に女子が含まれることを希望している。一方、令和 6 年度の当該コースの女子の実数はわずか 6 名（過去 4 年平均でも 9 名）であり、社会的要請に十分対応できるとはいえない状況である。このような状況を改善し、情報系女性人材の育成を体系的に進めるためには、入学段階から女子学生の受け入れを促進する仕組みを構築し、人材育成の社会ニーズに応える「女子枠」の新設が不可欠である。

理工学部知能情報コース及びクリエイティブ情報コースは、令和 5 年に本学に進学実績のある近隣の高校生約 2300 名に対して改組後の志望コースを調査した結果では、両コースに対し約 200 名が第一志望（募集人員の 3.35 倍、女子約 17%）と回答している。以上のように、令和 7 年度改組による情報系 2 コースも高い志願倍率となっていることから、高校生も含め情報技術やデザインの知識を駆使して DX や ICT の利活用できる人材に

対する地域や社会のニーズは高い。

② 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向

文部科学省が公開している 18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移によると、全国の 18 歳人口は、平成 21 年から令和 2 年まではほぼ横ばいに推移するが、令和 3 年から再び減少局面に突入し、令和 6 年には 106 万人にまで減少する。その後、微増となるが、令和 9 年に約 109 万人となり、令和 16 年には約 100 万人、令和 23 年には 71 万人まで減少することが予想されている（下図参照）。改組される令和 9 年から令和 16 年の間では約 9% の減少率となることが予想されている。



本学部の情報系分野への入学者の多い岩手県と青森県の18歳人口の減少率は、令和9年度を基準とすると、本事業の最終年度の令和16年には、それぞれ15.2%と10%となることが予測されている（文部科学省「学校基本調査」より）。

全国の大学進学率は、令和6年度は、59.1%であり、平成2年度の24.4%から一貫して増加している。岩手県の進学率は、平成20年度には32%、令和6年には、43%（男子44%、女子42%）であり、全国平均と比較して低い値となっているが、平成20年度と比較して11ポイント上昇している。また、青森県の進学率は、平成20年度には35%、令和6年度には46%（男子49%、女子44%）であり、こちらも全国平均と比較して低い値となっているが、進学率は11ポイント上昇している（文部科学省「学校基本統計」）。

本コースへの岩手県内からの入学者は、直近5年間では平均46.2%、青森県からの入学者は、直近5年間では平均16.6%となっており、青森、岩手両県からの入学者数は全体の60%以上である。両県の進学率は上昇しており、定員を維持することは、可能である。

③ 同分野を有する競合校の状況

同分野を有する競合校として、学校種、定員規模、学問分野、所在地の観点から、情報系学部を有する近隣の国公立大学である、弘前大学理工学部電子情報工学科と岩手県立大学ソフトウェア情報学部を選択し、入学志願状況を調査した結果は以下の通りである。弘前大学は女子入学者数を公開しており、表2に女子比率を記載したが、岩手県立大学は女子入学者数を公開していないため、表3には記載していない。

● 弘前大学理工学部電子情報工学科

募集人員は、本学情報系コースと同程度である。令和5年度から令和7年度の志願倍率は表2のとおり、2.3倍から2.8倍程度である。また、定員充足率は、各年度105%となっており、定員を充足している。また、女子比率は、6.9%から10.3%となっており、平均女子比率は9.2%となっている。

表2：弘前大学理工学部における入学志願状況

試験種別	募集人員	令和5年度				令和6年度				令和7年度			
		志願者数	志願倍率	受験者数	入学者数	志願者数	志願倍率	受験者数	入学者数	志願者数	志願倍率	受験者数	入学者数
前期日程	29	58	2.0	57	31	45	1.6	44	32	45	1.6	45	34
後期日程	9	71	7.9	22	10	70	7.8	26	9	52	5.8	17	7

総合型選抜	17	27	1.6	27	17	33	1.9	33	17	27	1.6	27	17
合計	55	156	2.8	106	58	148	2.7	103	58	124	2.3	89	58
女子数（内数）					6				4				6
女子比率（％）					10.3				6.9				10.3
定員充足率（％）					105				105				105

● 岩手県立大学ソフトウェア情報学部

募集人員は、本学情報系コースの2.5倍程度である。令和5年度から令和7年度の志願倍率は表3のとおり、3.8倍から4.7倍程度である。また、定員充足率は、99%から104%となっており、定員を概ね充足している。

表3：岩手県立大学ソフトウェア情報学部における入学志願状況

試験 種別	募 集 人 員	令和5年度				令和6年度				令和7年度			
		志 願 者 数	志 願 倍 率	受 験 者 数	入 学 者 数	志 願 者 数	志 願 倍 率	受 験 者 数	入 学 者 数	志 願 者 数	志 願 倍 率	受 験 者 数	入 学 者 数
前期日程	70	206	2.9	196	69	122	1.7	116	70	188	2.7	179	78
中期日程	15	211	14.1	90	16	386	25.7	134	15	348	23.2	126	12
総合型選抜	20	74	3.7	74	21	58	2.9	58	20	74	3.7	74	20
学校推薦型選抜	35	45	1.3	45	35	39	1.1	39	34	50	1.4	50	36
合計	140	536	3.8	405	141	605	4.3	347	139	660	4.7	429	146
定員充足率（％）					100				99				104

弘前大学と岩手県立大学の両大学は、直近3年間で高い志願倍率を維持しており、これらの競合校の入学志願状況から近隣地域においても、十分な受験ニーズがあることがわかる。また、定員充足率も満たしており、国公立大学に対する入学ニーズも十分あると考えられる。一方、本学情報系コースでは、岩手県出身者が平均46%程度、岩手県と青森県出身者は、平均63%程度となっており、表4には、情報系コース入学者の出身県についてまとめたものを示す。本学情報系コースでは、コンピュータのハードウェア、ソフトウェアを基盤として、人工知能やインタフェースデザインなど幅広い応用技術の学びが可能なところが特徴であり、競合大学との差別化をはかっていることから学生確保も問題ないといえる。

表 4：情報系コース入学者の出身都道府県

(人)

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
青森県	10	15	10	13	5	10
岩手県	30	25	22	36	37	28
宮城県	11	16	14	5	16	8
秋田県	6	1	4	6	6	6
その他	6	6	9	7	6	7
合計	63	63	59	67	70	59

④ 既設組織の定員充足の状況

表 1 に示すように、理工学部知能情報コース及びクリエイティブ情報コースの前身組織である改組前の知能・メディア情報コースの定員充足率は、107%から 122%となっており、平均で 113%であり、定員を 4 名から 12 名上回る学生数となっている。また、女子比率は、9%から 20.6%であり令和 2 年度から令和 8 年度までの平均女子比率は 14.5 %となっている。

表 1 抜粋：知能・メディア情報コース(令和 2～6 年度)および情報系クラス(知能情報コース、クリエイティブ情報コース)(令和 7～8 年度)における志願倍率および入学定員充足率(入試年度)

		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	平均
合 計	入学定員(人)	55	55	55	55	55	60	60	－
	志願者数(人)	185	189	221	150	173	174	271	－
	入学者数(人)	64	63	63	59	67	70	59	－
	入学定員充足率(%)	116	115	115	107	122	117	98	113

次に、理工学部以外の入学定員充足状況については以下のとおりである。

対象学部

- ・人文社会科学部
- ・教育学部
- ・農学部（R7 年度改組）
- ・獣医学部（R7 年度新設）

人文社会科学部人間文化課程

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	平均
入学定員	125 人	125 人	125 人	125 人	125 人	125 人	125 人
志願者数	400 人	441 人	405 人	360 人	384 人	401 人	399 人
入学定員充足率	1.10	1.06	1.08	1.06	1.06	1.06	1.07

人文社会科学部地域政策課程

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	平均
入学定員	75 人	75 人	75 人	75 人	75 人	75 人	75 人
志願者数	277 人	189 人	235 人	422 人	290 人	221 人	272 人
入学定員充足率	1.05	0.97	1.04	1.04	1.07	1.07	1.07

教育学部学校教育教員養成課程

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	平均
入学定員	160 人	160 人	160 人	160 人	160 人	160 人	160 人
志願者数	461 人	316 人	351 人	451 人	406 人	406 人	399 人
入学定員充足率	1.08	1.05	1.11	1.07	1.09	1.08	1.08

農学部食料農学科 (R7 年度改組)

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	平均
入学定員					50 人	50 人	50 人
志願者数					115 人	140 人	128 人
入学定員充足率					1.02	1.04	1.03

農学部生命科学科 (R7 年度改組)

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	平均
入学定員					51 人	51 人	51 人
志願者数					162 人	188 人	175 人
入学定員充足率					1.08	1.08	1.08

農学部地域環境科学科 (R7 年度改組)

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	平均
入学定員					70 人	70 人	70 人
志願者数					127 人	157 人	142 人
入学定員充足率					0.96	1.04	1.00

農学部動物科学・水産科学科（R7 年度改組）

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	平均
入学定員					55 人	55 人	55 人
志願者数					172 人	202 人	172 人
入学定員充足率					1.05	0.96	1.01

農学部植物生命科学科（改組前の旧組織・R7 年度より募集停止）

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	平均
入学定員	40 人	40 人	40 人	40 人		40 人
志願者数	71 人	95 人	94 人	87 人		87 人
入学定員充足率	1.03	1.08	1.10	1.05		1.06

農学部応用生物化学科（改組前の旧組織・R7 年度より募集停止）

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	平均
入学定員	40 人	40 人	40 人	40 人		40 人
志願者数	109 人	62 人	82 人	126 人		95 人
入学定員充足率	0.95	1.00	1.03	1.08		1.01

農学部森林科学科（改組前の旧組織・R7 年度より募集停止）

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	平均
入学定員	30 人	30 人	30 人	30 人		30 人
志願者数	69 人	83 人	72 人	57 人		70 人
入学定員充足率	0.97	1.17	1.03	1.03		1.05

農学部食料生産環境学科（改組前の旧組織・R7 年度より募集停止）

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	平均
入学定員	60 人	60 人	60 人	60 人		60 人
志願者数	98 人	130 人	108 人	110 人		112 人
入学定員充足率	1.02	1.08	1.02	1.08		1.05

農学部動物科学科（改組前の旧組織・R7 年度より募集停止）

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	平均
入学定員	30 人	30 人	30 人	30 人		30 人
志願者数	94 人	107 人	75 人	85 人		90 人
入学定員充足率	0.90	1.07	1.03	1.00		1.00

獣医学部共同獣医学科（R7 年度新設）

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	平均
入学定員					30 人	30 人	30 人
志願者数					247 人	223 人	235 人
入学定員充足率					1.13	1.10	1.12

農学部共同獣医学科（改組前の旧組織・R7 年度より募集停止）

	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	平均
入学定員	30 人	30 人	30 人	30 人		30 人
志願者数	147 人	184 人	152 人	175 人		165 人
入学定員充足率	1.13	1.10	1.10	1.10		1.11

以上のとおり、R7 年度「農学部 地域環境科学科」及び R8 年度「農学部 動物科学・水産科学科」のみ当該年度の入学定員充足率が未充足の結果となっており、それ以外の学部・学科は定員を満たしている。

当該年度の入学定員充足率が未充足であった上記 2 学科の状況について以下のとおり所見を述べる。

<R7 年度「農学部 地域環境科学科」>

農学部地域環境科学科の R7 年度の入学定員充足率は「0.96」であった。募集人員 70 人に対して志願者数は 127 人となっており、71 人を合格者とした。合格者に対する入学定員充足率は 1.01 であったが、4 名の辞退者が生じ、結果として入学者数が 67 人となり、入学定員充足率が 0.96 となってしまった。合格後の辞退者が若干名生じたため、単年度でみた場合入学定員充足率が満たされていない状況となったが、十分な志願者が集まっており、志願状況からは入学定員を満たす十分な需要がある状況となっている。また、改組後の R7 年度、R8 年度の 2 年平均においては、入学定員充足率を満たしている状況にある。

加えて、地域環境科学科の前身組織である、改組前の食料生産環境学科及び森林科学科の過去 4 年間（R3～R6 年度）の平均入学定員充足率においても、食料生産環境学科、森林科学科ともに平均入学定員充足率は「1.05」であり、いずれも十分に学生を確保してきた実績となっている。

志願倍率においても、R7 年度入試の農学部地域環境科学科の志願倍率は「1.8 倍」であり、一定の志願者を確保している。また、改組前の状況においても、地域環境科学科の母体となる旧組織 2 学科の平均志願倍率（R3-R6）は、食料生産環境学科で「1.9 倍」、森林科学科で「2.3 倍」となっておりいずれも安定して推移してきている。R8 年度の入学定員充足率は 1.04、志願倍率も「2.2 倍」であり、今後も安定的に志願者及び入学者を確保で

きる見込みである。

＜R8 年度「農学部 動物科学・水産科学科」＞

農学部動物科学・水産科学科の R8 年度の入学定員充足率は「0.96」であった。募集人員 55 人に対して志願者数は 202 人となっており、61 人を合格者とした。合格者に対する入学定員充足率は 1.11 であったが、8 名の辞退者が生じ、結果として入学者数が 53 人となり、入学定員充足率が 0.96 となってしまった。合格後の辞退者が若干名生じたため、単年度でみた場合入学定員充足率が満たされていない状況となったが、改組後の R7 年度、R8 年度の 2 年平均においては、入学定員充足率を満たしており、R7 年度の入学定員充足率は「1.05」であったことと、R8 年度も十分な志願者が集まっていることから、入学定員を満たす十分な需要がある状況と言える。

2. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

① 既存組織における取組

情報系コースでは、以下のような活動を行い、学生確保に努めている。

(1) アカデミックインターンシップ

理工学部が開催している高校生対象のアカデミックインターンシップ（AI プログラム）において、情報系技術に興味のある高校生を対象に、プログラミングや AI 関連実習を実施している。表 5 に示すように、各年度で多くの生徒が情報系コースのアカデミックインターンシップに参加している。直近三年間では、平均 54 名の高校生がアカデミックインターンシップに参加している。また、令和 7 年度は、36 名の学生が、「あみだくじの必勝法」や「CG ソフトでモノづくりをしてみよう！」といったテーマで活動を行っている。

表 5：アカデミックインターンシップ参加者数 (人)

	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
情報系コース	83	42	36
理工学部全体	289	166	171

(2) 探求活動支援

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）などの高校生課題研究への支援として、盛岡市内の高校（2 校程度）に対して、情報・数学分野への研究指導を平成 26 年から実施している。指導回数は、年間 2 から 3 回程度指導を行っており、支援している学生数は毎年 30 名程度である。

(3) 出前講義

情報系コース教員による高校への出前講義は、平均年間 5 件程度実施している。表 6 に、理工学部全体と情報系コースの出前講義件数を示した。

表 6：出前講義数 (件)

	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
情報系コース	9	4	2
理工学部全体	49	44	41

(4) オープンキャンパスの開催

例年 8 月上旬に、大学全体でオープンキャンパスを開催しており、多くの高校生およびその保護者が参加している。理工学部では、学部全体の説明に加えて、各コースの個別説明会を実施している。情報系コースでは、直近 3 年間の平均で約 280 名程度の高校生や保護者が参加しており、1 つの教室に入りきらないくらいの学生が集まってくるため、2 つの教室で説明内容をライブ配信することで対応している。例年多く

の参加者があることから、オープンキャンパスでコース説明会を開催する意義は非常に高く、受験生に対する有効な広報活動として引き続き重点的に取り組んでいく。

(5) Webサイトを活用した広報活動

情報系コースでは、令和7年度の改組により、知能情報コースとクリエイティブ情報コースのWebサイト(<https://www.cis.iwate-u.ac.jp/>)を一新し、コース紹介、履修モデル、教員紹介、入試・進路について、情報を提供している。なお、Webサイトの改定に当たっては、理工学部全体で統一感のあるデザインを採用し、情報系2コースの学びや魅力をわかりやすく伝えられるように工夫している。

(6) 高校訪問

学生確保に向けて、本コースに入学実績のある主要な高校を訪問し、志願状況を確認するとともに、本コースの広報を行っている。特にクリエイティブ情報コースが令和7年度から行っている、総合型選抜Ⅱへの志願者確保のための情報提供を行っている。

(7) その他

「小学生プログラミングコンテスト岩手県大会」において、プログラミング教育への支援を実施している。また、理系進学や魅力を伝える「岩手大学工学ガールズ」を中心に、女子中高生向けイベントを実施している。

② 収容定員変更後の取組

①で説明したこれまでの取り組みについては、収容定員変更後も引き続き実施し、学生確保に努める。また、総合型選抜Ⅱでの女子枠の充足に向けて、高校訪問の訪問先を精査して、受験実績のある高校や女子比率の高い高校を選定して、積極的に訪問する。また、総合型選抜Ⅱで合格した学生（女子学生を含む）から、総合型選抜Ⅱで受験した理由、プレゼンテーション試験の対策や、受験を決めた時期などをヒアリングし、今後の学生確保のための参考にする。また、国立研究開発法人科学技術振興機構の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」などへの応募を検討する。さらに、理工学部がオープンキャンパスに合わせて行っている、高校教員の招聘事業において、女子枠および選抜方法について広報する。

3. 収容定員を変更する組織で養成する人材の社会的要請や人材需要の動向

経済産業省が行った理工系人材需給状況に関する調査や、「いわて DX 推進連携会議」が実施した岩手のデジタル化に関する調査では、情報系の人材が不足していることが挙げられており、関連企業は人材確保のため求人数も多くなっている。最新の経済産業省の推計（「2040 年の就業構造推計（改訂版）の概要」）では、2040 年には、多くの産業において AI・ロボット等利活用人材が約 340 万人不足し、国全体でも職種や学歴による需給ミスマッチが深刻化する可能性が示されている。さらに、生成 AI・ロボット等の進展が加速する場合は、「AI・ロボット等利活用人材の需要がさらに増加する可能性がある」と分析されている。また、令和 5 年に調査された「岩手県内企業景況調査」（参考資料 1）によると、デジタル技術の活用に取り組んでいると回答した企業は 63.8%となっているが、約 30%の企業は、人材不足等を理由に取り組めていないことが報告されている。令和 2 年 3 月に本学を卒業した卒業生の雇用先 467 事業所に対して行ったアンケート調査では、回答した雇用先所在地割合は、岩手県が 33.1%、東北地方の事業所が 61.8%であった。それによると、本学卒業生に求められる技術的なスキルとして、幅広い知識、高度な専門知識、ICT に関する知識と情報機器を活用する能力などが挙げられている。

岩手大学が位置する岩手県では「いわて県民計画（2019～2028）」を定めており、その中では「地域に貢献する人材の育成」を推進するとし、「各分野の人材育成・確保」として「情報通信技術（ICT）科学技術を担う人材」が掲げられている。いわて高等教育地域連携プラットフォームが県内事業所向けに行ったアンケート「令和 4 年度 高等教育人材の教育及び県内定着促進に関するアンケート調査報告書」によると、「大学等高等教育機関卒業者に期待する資質、能力、知識について」という質問項目に対して「数理・データサイエンス・AI・IT に関する専門知識」への期待度が「非常に期待している」「やや期待している」をあわせて 64.9%、「大学等高等教育機関に求める教育プログラムについて」への期待度は「数理・データサイエンス・AI・IT 教育」が「非常に期待している」「やや期待している」をあわせて 59.6%となっており、岩手県内の事業所は県内の高等教育機関が情報系の教育プログラムを行うことや、卒業生に情報系の資質・能力・知識を身に付けさせることについて、高い期待を寄せていることが分かる。岩手大学を対象に絞ってみても、県内外の企業や県内自治体に対して行った「地域社会における岩手大学の役割等に関するアンケート調査業務報告書」によれば岩手大学との連携を望む取組みについての調査結果で、「DX、IoT・AI 活用等の職場内のデジタル化に向けての推進に関する連携」が「強く希望する」「やや希望する」をあわせて 57.5%となっており、こちらも同様の傾向を示している。

知能情報コース及びクリエイティブ情報コース（学部）、並びに理工学専攻の知能情報コース及びデザイン・メディア工学コース（修士課程）には、本学に直接送られて来る求人のほかに、各コースに直接送られてくる求人がある。コースに直接送られてくる

学コース) の就職者数の合計に対する求人倍率を表 7 にまとめた。令和 2 年度から令和 7 年度までの平均求人件数は、277 件であり、求人倍率は、4.1 倍から 5.7 倍となっている。卒業・修了者総数のうち就職者数平均が、57 人となっていることから、平均求人倍率は 4.9 倍となる。よって、卒業・修了者総数のうち就職者数に対して十分な求人数があることから、卒業・終了後の就職先が十分にあることがわかる。

以上のことから、情報系コースが育成する高度情報専門人材が社会から必要とされていることがわかる。

表 7：情報系コースへの求人数

		R2	R3	R4	R5	R6	R7
学部生	卒業者 (人)	64	57	58	65	55	62
	進学者 (人)	30	24	31	37	31	29
	就職者 (人)	34	31	27	28	24	33
院 生	修了者 (人)	23	33	33	24	40	36
	進学等 (人)	0	9	5	5	4	0
	就職 (人)	23	24	28	19	36	36
合 計	就職 (人)	57	55	55	47	60	69
	求人数 (件)	232	309	283	268	274	294
	求人倍率 (倍)	4.1	5.6	5.1	5.7	4.6	4.3